

令和5年6月定例教育委員会会議録

1. 日 時 令和5年6月15日（木）午後2時30分～午後3時42分
2. 場 所 市役所新館4階 第1委員会室
3. 出席者
教育長 大下 達哉 教育長職務代理者 植原 和彦 委 員 谷口 馨
委 員 野口 和江 委 員 和田 郁美
4. 事務局出席者
教育次長兼教育総務部長 藤浪 秀樹／学校教育部長 片山 繁一
生涯学習部長 牟田 親也／総務課長 井上 慎二／学校適正配置推進課長 池内 正彰
学校給食課長 寺埜 朗／学校管理課長 松下 英俊／産業高校学務課長 橋本 純
学校教育課長 松本 秀規／人権教育課長 松本 真里／生涯学習課長 井出 英明
スポーツ振興課長 河内 みどり／郷土文化課長 田中 幸博
総務課参事 柿花 真紀子

開会 午後2時30分

前回会議録について承認された。本会議録署名者に植原教育長職務代理者を指名した。
傍聴人0名。

○大下教育長

ただいまから、6月定例教育委員会会議を開催します。

報告に入る前に、非公開の決定ですが、本日の案件のうち、議案第24号は大阪府教育委員会の公表時期との整合性をはかるため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7号の規定により、非公開としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(教育委員、了承)

では、そのように取り扱います。

報告第38号 市民公開講座「ものづくり講座」の実施について

○大下教育長

報告第38号について、説明をお願いします。

○橋本産業高校学務課長

報告第38号につきましては、市民公開講座「ものづくり講座」の実施についてです。

産業高校が持つ、物的・人的資産を広く地域に開放することで、産業高校の魅力をアピール

するとともに、生涯学習教育の向上にも寄与することを目的に、市内の小学生とその保護者を対象に「ものづくり体験講座」を実施します。

対象は市内の小学生、4年生から6年生とその保護者です。日時は、7月29日（土）午前10時から12時、場所は産業高校です。内容は「木製立体パズルをつくる」というもので、定員は親子10組です。費用は1,000円、講師はデザインシステム科の教員が担当します。

周知につきましては、広報きしわだ7月号とホームページに掲載予定です。

○大下教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

○野口委員

小学生が行うということですが、どの程度の道具を使って行われますか。

○橋本産業高校学務課長

木工をテーマに実施しますので、糸のこを使うと聞いています。電動かどうかは不明です。

○野口委員

小学校で糸のこを使うのは5年生くらいからでしょうか。4年生で使うには保護者の方の手伝いもいるのではと思いますので、親子で楽しんでいただけたらいいなと思います。

○谷口委員

講座の目的にあるように、産業高校では、学校の魅力をまさにしっかりとアピールしなければならない状況かと思います。小学生が対象の講座ですので、中学生になり高校受験の時期に、今回講座を応募され落選された方も含め、何かアプローチを行っていただければと思います。

○大下教育長

大阪府の職業能力開発協会が、ものづくりの実体験を中学生に出張授業をするという取組がありますが、大和川より南で実績はなくて、と相談にいられました。話が進み、桜台中学校で行うこととなり、その道のプロの方がきてすべて先方の費用負担でしていただけるという大変有難い授業がありました。校長から、子ども達も楽しみながら学ぶ事ができたという報告を受けています。

産業高校は生徒の獲得にむけてこれからPRの努力をしていかなければならない中で、こういった公開講座以外に中学校への出前授業が可能なのかどうか、職業能力開発協会と同様にできれば、中学生がものづくりに関心を持って産業高校に志願する子も増えると思いますので、また一度ご検討下さい。

○橋本産業高校学務課長

はい、有難うございます。

○大下教育長

他にいかがでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

報告第39号 市民公開講座「簿記講座3級」の実施について

○大下教育長

報告第39号について、説明をお願いします。

○橋本産業高校学務課長

報告第39号につきましては、市民公開講座「簿記講座3級」の実施についてです。

産業高校による地域貢献の取組の1つとして、11月実施の日商簿記検定3級の合格をめざす簿記講座を実施いたします。対象者は、学生を除く市内在住・在勤者とし、記載の通りの日程で、全24回の講座を開設します。

場所は産業高校、定員は15名で、テキスト代として3,000円をご負担いただきます。講師は、産業高校の教員が担当いたします。

周知につきましては、広報きしわだ7月号とホームページに掲載予定です。

○大下教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

○谷口委員

本件の講座とは違いますが、今話題のチャットGPTなどの講座も、情報科の方で市民にアピールするような講座として考えていただければ、産業高校の魅力の発信にもなると思いますので、一度ご検討をよろしくお願いいたします。

○橋本産業高校学務課長

チャットGPTについては校内でもどう使うかという事を先生方に考えていただく必要があると思っています。さらにそれを外に向かいどのようにアピールしていくかは当然課題であると思っています。

○植原教育長職務代理者

試験合格者数の記載が資料にありますが、本講座課程を終了した方の合格率は何パーセントでしょうか。

○橋本産業高校学務課長

今は数字の持ち合わせがないため、詳細を確認し、また報告させていただきます。

○大下教育長

他にいかがでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

報告第40号 令和4年度 岸和田市立中学校卒業生の進路状況について

○大下教育長

報告第40号について、説明をお願いします。

○松本学校教育課長

報告第40号につきましては、令和4年度岸和田市立中学校卒業生の進路状況についてです。

昨年度の中学校卒業生の進路状況の報告です。概要としまして、高等学校等に進学した者1,621名(97.9%)、進学及び就職した者1名(0.1%)、就職した者9名(0.5%)、専修学校等に進学した者21名(1.3%)、その他8名(0.5%)、合計1,656名(100%)となっております。ちなみに「専修学校等に進学した者」のうち12名(0.8%)は高等学校の卒業資格をとることができる専修学校に進学していることから、「高等学校等に進学した者」にも計上しております。

詳細は別紙のとおりです。

○大下教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

例年と比較して、何か特色はありますか。

○松本学校教育課長

大きな変化はございません。支援学校へ進んだ子が13名から3名と数値に変化があります。

○大下教育長

支援を要する生徒の母数が減ったのか、支援学校以外の別の進路へも子ども達が希望した結果であるか、何か傾向がわかりますか。

○松本人権教育課長

次の第40号で支援学校在籍生徒の進路状況について報告します。まとめて詳細ご説明します。

○大下教育長

通信制への進学者も少し増えていますでしょうか。

○松本学校教育課長

全国的に通信制の高校への受験者数が増えています。府内の通信制の高校では、定員を超過していると聞きます。

○片山学校教育部長

進学者のうちの通信制高校進学者割合は、平成30年の5.4%から令和4年で7.8%となっていますので、少し増えていると思います。

○和田委員

不登校の子達は通信制に行く子が多いのでしょうか。

○松本学校教育課長

そのような傾向になっています。

○谷口委員

全日制の他府県は私立への進学と見てとればいいのでしょうか。

○松本学校教育課長

ご家庭の事情で転出した者、近隣の和歌山県への通学者、スポーツ推薦で他府県へいき寮生活の子もいます。詳細は集計していません。

○植原教育長職務代理者

全日制課程への進学者率が減っている理由は何でしょうか。また進学者率も97%と減っています。家事従事が少し増えています、中学校卒業後家事従事というのは何らか理由があるのでしょうか。その他のその他が、前年3名から6名へと増えているのもどう理由でしょうか。分析結果を教えてください。

○松本学校教育課長

全日制が減っていますのは、子ども達の選択の中で、当市に限らず通信制や定時制を選ぶ子が増え、全日制を選ぶ子が減っていることによります。不登校の児童生徒がその傾向にあり、自分はこうしてやっていきたいという思いをもって、通信制等を選択しています。

進学者率の減少は、就職のみやその他が増えていることによるものですが、就職のみの内訳の中の家事従事をしたもの5名については、これから詳細の把握を行い、確認していきます。

その他のその他の6名について、本格的にバレースクールに通いたい者が1名、本人の意思を尊重してということで卒業後姉と同じ場所でアルバイトしたいというものが1名、外国籍で母国に帰国する者が1名、外国籍で母国の通信制を他府県で学ぶ者が1名、ネイルの勉強がしたい者が1名、就職はしていないが進路を見据えている者1名の合計6名です。

○植原教育長職務代理者

出口は大事です。中学を出た後の進路が未定に近いというのは解決したいと考えます。子の自負や親の意見や考え方もあって中々難しいとは思いますが、委員会として出来る限りの方策をとってもらいたいと思っています。

○松本学校教育課長

現場の教師と話しますと、時代が変わり、子の価値観が変わってきている事が影響していると聞きます。絶対に学校に行かなくてはならないではなく、色々な職業がある中、進学をせずにその方向に向かうという子も出てきています。

○片山学校教育部長

パソコン機器等の普及状況が10年前、20年前と異なり、子ども達にとって、憧れややってみたいと思いをもち職業や幅が広がったと思います。進学や就職を決めるのは子ども達自身ですが、自分の将来を決めるときに備えておくべき力が必要です。どんな仕事に就こうとも、人との折り合いをつけていかなければならない、人の話はしっかり聞かねばならない、でも自分の主張も相手に伝わる形で伝えていかねばならない、というように社会を生き抜く力をしっかりつけていかなければならないと思います。力を備えた上で、YouTuberになるのも、会社でものづくりをするのも、会社で事務に従事するのも、子ども達自身で選択をしたのであればいいと思います。いわゆる全日制の学校に行く子が減っている背景は、行ってみたいと思うところがある、そのためには全日制にいかなくとも良い、定時制の高校でも大学へ行く資格は取れるし、選択の幅が広がったという要因はありますが、学校教育の役割としては、そこにいたるまでの社会を生き抜く力を育てていかなければならないと思います。

○大下教育長

昔人気のあった官僚、法曹界の人気は陰っており、将来にわたって手に職をつけるという事が重視されてきたのではないかと思います。特に人間の仕事の49%をAIが取って代わると言われる時代になってきました。産業高校はそういう進路の受け皿として活路を見出してほしいと改めて思います。

○谷口委員

子ども達の選択肢が増えて、子ども達が自ら進路を選んでいるというのは何ら問題はないと思いますが、ヤングケアラーに代表されるような経済的な理由で自らが望まない進路を選んだという事例はないでしょうか。

○松本学校教育課長

ヤングケアラーについては、まずはそのような状況を把握してということ先生方には発信しています。今のところ影響を受けてという事例は聞いておりませんが、注視していきたいと思っています。

○野口委員

教育訓練機関類似機関等とは具体的には何でしょうか。また、海外で高等教育を受けることを選択した生徒さんなどもいらっしゃるのでしょうか。

○松本学校教育課長

教育訓練機関類似機関等はトヨタ系列の養成機関、例えば整備士など、と聞いています。また海外進学については、事例は特に聞いておりません。

○野口委員

全国的には高等教育を海外で学び、海外の大学へ進学する人も増えているそうです。

進路とは直接関係ないかもしれませんが、岸和田の中学生が海外へ短期間でも行く機会はないでしょうか。昔はそういった例がありましたが、今は中学生にはその機会がなくて、高等学校はサウスサンフランシスコがありますが、中学生にもそういった刺激を与えていくことも必要ではないかなと思います。どんどん外へ出ていく子どもが育って欲しいなと思います。

○松本学校教育課長

中学校は、以前は中国と交流を行っていましたが、国際事情もあり、国際教育は ICT を使った教育に置き換えさせていただいています。サウスサンフランシスコは、コロナ禍を経て今年からまた復活しています。海外の大学を選ぶ子は増えていると聞きます。高等学校でそれに力を入れる学校も出てきているようです。高校を海外でという事例はまだあまり聞きませんが、そういう時代に来ているのかなと思います。

○大下教育長

他にいかがでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

報告第 41 号 令和 5 年度 岸和田市水練学校の開催について

○大下教育長

報告第 41 号について、説明をお願いします。

○松本学校教育課長

報告第 41 号につきましては、令和 5 年度 岸和田市水練学校の開催についてです。

市内小学校 5、6 年生を対象として、子どもたちに正しい泳法を習得させることを通して体力の向上を図るものです。

詳細は別紙のとおりです。

○大下教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

例年と変更した点はありますか。

○松本学校教育課長

昨年度、コロナ禍から復活し実施しましたが、参加人数を減らしました。子ども達への指導がしやすかったということでしたので、昨年度と同様、例年と比較すると少し縮小した形で今年度実施します。

○野口委員

以前は、自転車通学をする際の注意書きなどもあったように思いますが。

○松本学校教育課長

この案内が保護者向けですので、参加が決まった子への詳細な案内は、昨年度と同じ内容で別に発信予定です。

○和田委員

水連学校に行く小学校 5・6 年生は泳げるようになるイメージがありますが、小学校 1 年生から 4 年生対象の初心者水泳教室はその印象があまりなくて、差があるような気がします。

○河内スポーツ振興課長

4年生以下の子ども達は、25m泳ぐという目標を掲げてやっております。1年生から蓄積をしての中で泳げるようになる子もいるようです。コロナ禍で2年・3年はそれができず、いつもの年より泳げる子が少なかったと聞いています。積み重ねることによって自信につながる子どもが増えているようです。

○大下教育長

関連しまして、学校水泳の外部委託化についてその効果を教えていただけますか。

○松本学校教育課長

学校水泳について、昨年度より2つの中学校区で民間委託をしています。専門的な指導をしていただき、泳力が伸びたというのは間違いのない事実です。先生方も水泳の指導に関し勉強になったようです。非常に効果がある授業と思っており、本年度もさらに5つの中学校区で展開します。全校区で実施をと思いますが、受け皿等の課題もあり拡げていけるかは検討中です。

○大下教育長

スポーツ振興課の初心者水泳教室も学校教育課の水連学校も、希望者だけの事業です。全員が対象である学校水泳では、少なくとも命を守れる・溺れない・浮けるということを身につけなければなりませんので、外部化も含めて強化をしているところです。

他にいかがでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

報告第42号 令和4年度岸和田市立中学校支援学級在籍生徒の進路状況について

○大下教育長

報告第42号について、説明をお願いします。

○松本人権教育課長

報告第42号につきましては、令和4年度岸和田市立中学校支援学級在籍生徒の進路状況についてです。

表には、令和4年度に支援学級に在籍した中学校3年生の生徒91名の進路状況を記載しております。進学した者については、全日制課程が49名、定時制課程が4名、通信制課程が25名、支援学校が3名、その他が10名となっております。なお、支援学校の内訳としましては、佐野支援学校、すながわ高等支援学校、岸和田支援学校となっております。

○大下教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

○谷口委員

文科省の直近資料、平成27年度の資料によると、支援学級を卒業した進路のうち、特定の支援学校高等部に入った方が63.4%いるということで、普通科に行っている子もいるようですが、重度の発達障害等とあればうまくついていけるのかという問題があると思います。全日制課程に行った人の中には途中で頓挫した人が多くいるとも載っています。その内容を教えてください。

○松本人権教育課長

全日制課程に行っている者の内訳は、公立で37名、私立で12名となっています。

○谷口委員

府内の公立では、受入れ体制があるということでしょうか。結果として、公立にはそういった先がなく私立の特化した学校に入っていると神奈川県データのデータでは見たことがあります。

○松本人権教育課長

府内の公立の高校を受験し、一次募集で通らなければ定員割れ等で2次募集を受け入学しているようです。

○大下教育長

高校無償化の動きを受け定員割れをおこした公立高校への入りやすさもあるようですが、特性に応じた子のフォローが出来ているのかはチェックしていく必要があります。その点は検討していただきたいと思います。

○松本人権教育課長

しっかりと高校の方につながる進路となっているかどうか、その辺りは確認してまいりたいと思います。

○谷口委員

ICT教育のモデル校でもある、つくば市立春日学園義務教育学校では、タブレットを利用して支援のいる子どもさんへもしっかりと教育をしているようですが、それは例外なようで、結果的に普通科へ行っているのが実態であるとも書かれていました。また中学校から支援学校に行っていますと通知表がないということも、公立に行きにくいということもあるようです。

当市では49名が全日制に行かれたということですので、その子が将来、大学や専門のところに進めるような、選択肢をとれるような教育を受けられているのかどうかを、突っ込んでみていただけたらと思います。支援学級で教育される先生方にとっても参考になるのではないかと思います。

○大下教育長

谷口委員から情報提供をいただきました件、しっかりと受け止めるようにお願いします。

○植原教育長職務代理者

全日制課程へ行く子はどんな障がい種別の子が多いのでしょうか。

○松本人権教育課長

中学校の支援学級在籍をしていた生徒の状況を見ますと、学習面ではなく、対人関係やソーシャルスキルなどを学んでいる子ども達が全日制課程の入学進路を選んで進んでいる生徒が増えていると思います。また、支援学級で当学年の学習を積み重ねているということもあり、進路の方も、全日制へ進む子も増えているのかなと思います。しっかりとその状況を確認していきたいと思います。

○野口委員

府立高校に知的障がいの自立支援コースがあるかと思いますが。そちらへの進学者がどれぐらいいるのか、詳細がわかれば教えて下さい。

○松本人権教育課長

実績としては、令和4年度そういったコースへの進学者はいませんでした。

○大下教育長

他にいかがでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

報告第 43 号 岸和田城天守閣の展示について

○大下教育長

報告第 43 号について、説明をお願いします。

○田中郷土文化課長

報告第 43 号につきましては、岸和田城天守閣の展示についてです。

概要は、「たいむとりっぷ！藩士の日常」という展示名で、これまでとは少し違った内容となっています。展示室に入れば、江戸時代にタイムトリップし、岸和田に暮らしていた武士の暮らしぶりが垣間見られるような展示内容となっています。

主な展示資料ですが、別紙をご覧ください。熊沢友雄日記は、江戸時代末期の岸和田藩士であった熊沢友雄が、1852 年から 1895 年にわたって記載した日記です。本資料には、友雄の仕事やプライベート、食事のメニューなど、公私を問わない生活の様子が書き記されており、当時の藩士の暮らしぶりを、一例として知ることができる貴重な資料です。

櫓時計は、岸和田城内で用いられた和時計です。

岸和田藩差紙は、岸和田藩士に充てた登城命令書です。在城勤務以外に藩主などから特例の要件がある場合、藩士には日時指定で呼出しの手紙が届きました。たいていが前日に届き、武士の正装である袴を着用するようという文言が加えられる場合もあります。

他に日常の食事のお膳など、約 30 点を展示しています。

会期は、令和 5 年 6 月 1 日から令和 5 年 10 月 1 日までです。

周知方法は、広報 6 月号、市 HP に掲載、ポスターやチラシです。

報告が遅れましたのは、大枠は決まっていたのですが、詳細を決めるのにかなり議論を重ねました。そのため 5 月の定例会までには展示内容の報告ができませんでした。

○大下教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

内容的には興味深いですが一見すると分かりにくいかもしれません。展示の際、何らか工夫をされていることはありますか。

○田中郷土文化課長

展示場入口にチラシを設置しています。そこには熊沢日記の現代訳等を掲載し、見ていただくことで展示内容の理解を深めてもらえるものとなっています。また、お膳の上に当時の食事の模型を載せたものを展示しており、武士と庶民の食事の違いを見ていただけるようになっています。

○大下教育長

他にいかがでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

では、議案の審議に移ります。

議案第 23 号 令和 6 年度 岸和田市立産業高等学校入学者選抜方針について

○大下教育長

議案第 23 号について、説明をお願いします。

○橋本産業高校学務課長

議案第 23 号につきましては、令和 6 年度 岸和田市立産業高等学校入学者選抜方針について

です。

令和6年度大阪府公立高等学校入学者選抜方針が定められたことに伴い、本市においても、令和6年度岸和田市立産業高等学校入学者選抜方針を定めるものです。

内容につきましては、1の全般的な事項は昨年度と同様とし、2の各入学者選抜の具体的事項は、入試日程を大阪府立の高校に合わせたものとしております。

日程につきましては、特別入学者選抜のデザインシステム科は、出願が2月14日及び15日、学力検査が2月20日、実技検査が2月21日、合格者発表が2月29日となっています。一般入学者選抜の商業科と情報科は、出願が3月4日から6日、学力検査が3月11日、合格者発表が3月19日となっています。定時制についても同じ日程です。定員割れが生じたときの二次入学者選抜は、出願が3月25日、面接が同日の25日、合格者発表は3月27日としております。

○大下教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

ないようですので、原案のとおり承認することとします。

以上で、公開の案件は終了しました。

次に、非公開の案件の審議に入ります。関係者以外は退席願います。

議案第24号 令和6年度 岸和田市立産業高等学校入学者選抜における学力検査問題の選択、配点比率及びアドミッションポリシーについて

(非公開議案1件について審議され、承認された。)

○大下教育長

以上で全ての案件が終了しましたが、他に何かございませんか。

ないようですので、これをもちまして本日の定例教育委員会会議を閉会します。

閉会 午後3時42分

本会議録に相違ないことを認め署名する。

教育長

署名委員